

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 内山 昌一氏)

人の力

マンパワーという言葉聞いたことがある。「仕事などに投入できる人的資源」の意である。人が人ではなく、もはや物になっている言葉ではないだろうか。

私たちは物として生きているのではない。生まれたときから親を持ち、そして様々な人や物と関係を持つ。そういう様々な関係が歴史を持ち、私たちが生かしているのである。その関係を、物に置き換えることができるのであろうか。

先日祖母が亡くなり、自坊で葬儀を勤めてきたのだが、門徒さんや親戚の方々に、色々な形で助けていただき、共に祖母を送り出すことができた。その葬儀で、今まで知らなかった、祖母が生まれ育った環境を教えてくださいました。苦労もあったそうであるが、多くの人や環境にお育ていただいたそうである。同じように私も私の思いを超えて様々な力をいただいで生きているのである。

この身が関係の上に成り立っていることに目が向かないで、人も、自分も、物として見る私たちの在り方が、群生海という言葉で言い当てられている。群れをなすように生きてきた歴史、この苦渋の選択しかない在り方が、実は関係性の上に成り立ち、人をして人たらしめる方向、私が私であろうとする方向を促す力、「人の力」なのである。

(仲井 真裕 記)



盂蘭盆会

今年も、暑い季節、お盆の季節がやって来ます。東京地方は7月ですが、8月お盆が全国的です。

お盆には、亡き人を偲び、生前のご苦勞ご指導に感謝して合掌することが多いかと思えます。

しかし、亡くなると素直に手が合わさるのに、近い人であるほど、生前は「有り難い」とも思わず、むしろ「当たり前」、時には「迷惑」とさえ思ったりしていました。失ってから、失ったことの大きさをつくづくと感じるのです。お盆が来るたびに、間に合わない生き方をしていたと知らされます。

お盆は、ウランバーナ、逆さ吊りと訳され、私たちが当たり前と感じていることが、亡き人を手懸かりとして、「そうではなかった」と教えられる、大切な行事なのです。

読者の声

拝啓 惜春の候、いよいよ新緑むせかえる季節となりました。平素はすっかりご無音に対し、心からお詫び申し上げる次第です。

昨年の命日には木村様にお参りして頂いて早一年の月日が経つのが早いのに驚き至りに存じます。私も昨年春から市の方より「要介護二」を受けて、ほとんど毎日寝台で休みながらテレビをみているか、あとは通院が仕事の一部です。今年二月より家内も「要介護二」となり、支援の時より色々な方々に御迷惑をかけております。それでなんとか二人でぼちぼちと助け合ってやっております。

以上、右の様な状態ですのでとても貴寺にお参りする事も出来ず、ここにほんの志のみですが同封してお送りしますので、永代経のおつとめの方、宜しくお願い致します。(後略)

平成26年5月29日
(草加市 小林 通信様)

いつもお世話に相成りまして、有難うございます。遅くなりましたが「出かけていく聞法会」の記念イベントの会費を送らせて頂きます。

主人の介護の為、四時間を限度に家を空けられず、今回の記念会には出席を諦めて居りましたところ、主人が転倒による上腕骨折で急遽入院し、二週間以上病院でお世話をして頂ける事となりました。

もし、キャンセルでもあればと、お電話致しましたところ「まだ大丈夫です」との事で、遅ればせながら参加をお願い致しました。

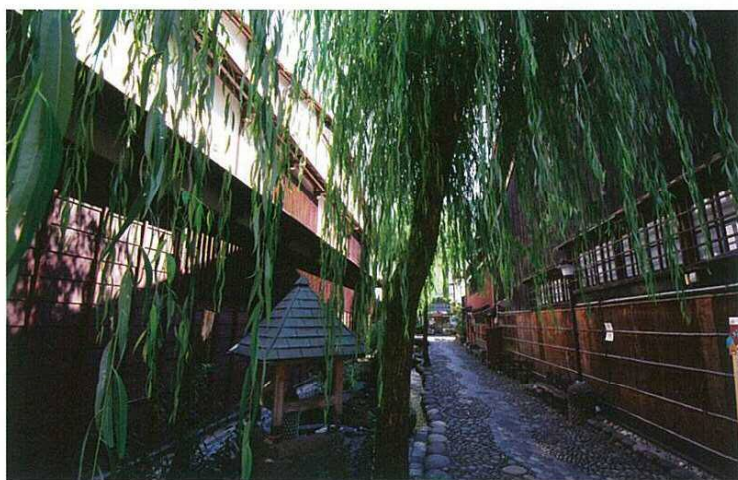
主人の方は外科的な治療で心配無いと言われておりますので・・・他事ながらご放念下さいませ。

それではよろしくお願い申し上げます。
(西東京市 田中 年子様)

お念仏を伝承してくださった四人目の高僧は、中国の道綽禪師(562~645)です。ここで禪師と呼ぶのは、禪宗の師匠ではなく、高僧の尊称です。道綽禪師は、教(經典)はあるが、行ずる人、証する人はないといわれる末法の時代に入って、十一年目の生まれといわれます。末法の時代を実感するように、武帝の過酷な仏教弾圧がおこり、お経や仏像が焼かれ、禪師も僧侶の身分を奪われます。武帝の死で弾圧から解放され、再び出家して勉学の修行に励まれますが、お釈迦さまがおられた頃より時代が遙かに遠ざかり、教えを理解する能力が劣ってくるなかで、自分の努力のみで覚(さと)ることは、難しいと気づいていかれます。

そうした時代と自分を救う求道の旅で、玄中寺にお参りした禪師は、曇鸞大師の徳を讃える碑文に出会い、お念仏の教えに帰依されます。その感動で、玄中寺にとどまられた禪師は、『観無量寿経』の講義と毎日のお念仏に専念されて、生涯を終えられます。禪師は、著書の中で『大集経』を引かれて「我が末法の時中の億億の衆生、行を起こし道を修すとも、未だ一人も

得る者有らじ。当今は末法、是五濁悪世なり。唯浄土の一門のみ有りて、通入すべき路なりと。『教行信証』所引「安樂集」といわれます。つまり、末法の時は、億の人々が修行したが一人も覚るもの



正信偈の話 ③5 **松井憲一**
聖道難証 唯明浄土可通入 万善自力貶勤修 円満徳号勸専称
(道綽、聖道の証し難きことをして、唯浄土の通入すべきことを明かす。万善は自力なれば、勤修を貶す。円満の徳号、専称を勸む。)

ことを決して、唯浄土の通入すべきことを明かす」と、「決して「明かされた禪師のみごとな決断を、讃えられます。さらに、聖人は、「曇鸞大師(曇鸞大師)のおしえをうけつたえ 綽和尚(道綽禪師)はもろともに 在此起心立行(こころを起し、行を立す)ここで発心し修行すること)は、此は自力とさだめたり(『高僧和讃』)と和讃されます。体調が悪くなると、道を求めて苦悩してきたこともふつ飛んでしまうようなわれらの努力には、限界があります。そのような、自分の力を信じる修行は、完成しないと教えられる

がいない、だから末法と五濁悪世に通じる道はお念仏の浄土門の一門のみであると、明らかにされます。それで、親鸞聖人は、「道綽、聖道(聖への自力の修行)の証し難き

だから、仏に成ろうとする万善は、どれほど修行に勤め励もうとも、高慢な自力の心であるから、「万善は自力なれば、勤修を貶す」と、勤修するのは間違いでであると退けられるのです。こうして、万善の自力の道は歩めないといわれた禪師は、「円満の徳号、専称を勸む」といわれます。「円満の徳号」とは、すぐれた功德がすべてそなわった名号、すなわち「南無阿弥陀仏」のことです。

われらが、「我が家は円満だ」と思う時は、おおむね自分を中心に、家庭が回っているからです。それなのに、自分が裏で支えて控えているから、円満だと思っている。そのようなわれらに、ほんとうの功德や円満が成り立つはずがありません。だから聖人は、「真実功德と申すは、名号なり。一実真如の妙理、円満せるがゆえに、大宝海にたとえたまうなり。(『一念多念文意』)と、まことの功德は名号であつて、まことの道理にのみ、円満はがあると教えられるのです。それで、いつでも自分の不実の姿が教えられる、南無阿弥陀仏を専ら称えよと勧めてくださいるのです。

山門の言葉

外物を追うは 貪欲の源なり

清澤満之

テレビをつければスマホや車など、新しい商品が目まぐるしく紹介され「最新」という言葉が踊っている。欲望は駆り立てられ、私達の欲望は何処までも止まるどころを知らない。「友達も持つてる」と、半ば脅迫観念すら覚える。

それは物だけではない。権利や主義を主張し争い、手に入れようとす。しかし勝ち取った感動や苦労は時間とともに風化し、いつしか当たり前のこととなり、新たな主張に向かつていく。

さらには、得たものを失う恐れも同時に私達は抱えている。

貪欲とは、喉の渴きを海水で癒やすがごとくのものであり、手に入っても入らなくとも、結局は安んじることが出来ないのではないだろうか。

『大無量寿経』では私達は貪欲(むさぼり)・瞋恚(いかり)・愚痴(現実を受け取れない)の身であり、この世にある限り治まらなさと教えられ

る。そして貪欲の姿を「不急の事を諍う」と言い当てる。

日頃の私どもは外物を追うという不急の事に追われている。それは本来急ぐべき事を見失っているという事だ。

満足させる何かを外に要求する、その方向が問題ではないだろうか。

急ぐべき事は内、つまり不平不満を感じ、都合で判断する自分自身を問題にすることであり、南無阿弥陀仏はその方向転換を呼びかけている。

実は、自己を問い、自己を明らかにしていくという生涯の課題が如来から託されている身である。急ぐべき事はその身に目覚め、応えていくことである。そこにこそ人間の本当の満足があり、人類が求めて止まないものであると教えられる。



(山崎 哲記)

日誌

5月17日	定例聞法会	5月25日	城西ブロック会総会・聞法会 (中野商工会館・参加者14名)
5月18日	城南ブロック会総会・聞法会 (大井町きゅりあん・参加者18名)	5月27日	仏教青年会「歎異抄」に聞く 講師 宗 正元師
5月21日	婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く	5月27日・28日	宗祖忌
5月22日	「唯信鈔」に聞く(第6回) 講師 宗 正元師	5月31日	混声合唱団「エコー」練習
5月24日	混声合唱団「エコー」練習 同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 岸本住職	6月4日～8日	木村主任 滋賀県東浅井方面 差向布教 派出
		6月7日	混声合唱団「エコー」練習
		6月7日・8日	中興忌
		6月8日	城東ブロック会総会・聞法会 (人形町香港美食園・参加者28名)
		6月11日	出かけていく聞法会 30周年記念大会 実行委員会
		6月14日	出かけていく聞法会 30周年記念大会(浅草ビューホテル)

「出かけていく聞法会 30周年記念大会」を終えて

当日の様子は、次号に掲載いたします。

前略 以前から西徳寺様に参拝したいと願っておりました新潟教区・坊守会。この度の記念大会をご縁としてお参りさせていただくことが出来まして、有難く思っております。たいへんにご盛会でありましたこと、誠におめでとうございます。(後略)

(新潟市・梵行寺 坊守 様)

おはようございます。昨日は聞法会30周年記念大会、お世話様でした。

すばらしいセレモニーでしたね。企画がよかったです。お寺さんのいろいろな催しを今までたくさん頂きますが、今回が初めての参加です。おかげで聞法会の雰囲気と記念行事がどのようなのか気になり参加させていただきました。

はじめての門徒の皆さんばかりの中、和気あいあいと過ごせました。法話も苦にならず呑み込め、合唱団のみなさんもよかったです。大会を完成させるのにご担当のみなさん、大変だったと思います。

次回40周年大会も大谷顧問はじめ皆さんと出席できればと思いました。喜寿の大谷さん、次回40周年にも法話を聞かせてください。同年の私も生かさせていただきますようお祈りします。

西徳寺および門徒のみなさん有難うございました。

(平塚市・木瀬 佳弘 様)

拝啓 いつも年賀状ありがとうございます。一方通行ですが、来年も楽しみにしています。

さて、先日は「出かけていく聞法会30周年記念大会」に出席させていただき、ありがとうございました。せっかく西徳寺最高顧問大谷義博師におあいできたのに、ひとこということを忘れてしまいました。「聞法会30周年おめでとうございます」と言い忘れてしまいました。どなたかこの思いを大谷さんにお伝えしていただけないでしょうか、お願いします。(略)

(港区・熊谷 憲一 様)

梅雨の晴れ間の一日、天候からも祝福された会でした。あの様に大勢の方がお集まりとは予想だにしておりませんでした。

お彼岸にお勧め頂いたときは、日頃のご無沙汰を挽回すべく少しでもお役に立ちたいという、恥ずかしい想いを伴って申込みをさせて頂きましたが、(私にとりましては)計らずも非日常の佳いお話に接し、事の成り行きに不思議ささえ覚える心地でございました。

会の次第を把握しておりませず、母を見舞う予定も崩さずにおりましたので、止むを得ず朝田先生の後、御挨拶もせず失礼しなければなりませんでした。(中略)

生意気ですが、今日の会の進行係の若いお坊様のお言葉一つ一つにお人柄がしのばれ、とても心に響きましたこと、そして会の雰囲気も和みつつ格調高く整えられ、お偉いことと感じ入りましたこと、付け加えさせていただきます。

六月十四日

(世田谷区・駒月 昭江 様)

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

川崎市 大西 千鶴子 様

千葉市 川島 弘 様

北区 小山 幹夫 様

新宿区 赤堀 徹 様

葛飾区 宮崎 秀夫 様

中野区 霜鳥 宮子 様

掲示板 平成26年 7月

- 5日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後6時 同行会『現代の聖典』に聞く
法話 木村主任
- 13日(日)～16日(水) 孟蘭盆会
(10日よりお盆体制になり、新盆を中心にお宅にお参りさせていただきます)
- 19日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
23日(水) 午後1時 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
29日(火) 午後7時 仏教青年会座談会
30日(水) 午後4時 総代会

城東ブロック会・聞法会

去る6月8日、人形町香港美食園におきまして、会員25名の参加を頂き、聞法会を行いました。初参加の方も3名いらっしゃり、懇親会では食事を頂きながら、皆様から様々な質問が飛び交う賑やかな会になりました。次回は**10月19日(日)、江戸川区小岩区民館**におきまして聞法会を行う予定です。皆様お誘い合わせの上、ご参加下さい。

(仲井 真裕 記)



城西ブロック会・総会報告

去る5月25日、中野区商工会館において平成26年度城西ブロック会総会・聞法会を開催しました。参加者14名によって事業報告・事業計画、並びに会計報告・予算案が承認され、26年度の活動方針が決定されました。

一身上の都合により任期途中ではありますが関口哲也様が会長を辞任され、今年度から笠原紀一様が新会長に就任され、新体制で出発することとなりました。

聞法会では岸本住職から、南無阿弥陀仏の教えとは自分自身に目を覚ましていく法であり、阿弥陀仏の本願が、絶えず私たちに南無阿弥陀仏の名号となって喚びかけられていることが語られました。

懇親会は場所を移して開かれ、時間を忘れてお互いに意見交換をさせていただき、終始和やかな雰囲気でご経過することが出来ました。

次回は**11月9日(日)**、場所は**中野商工会館**です。大勢のご参加、お待ちしております。

(木村主任 記)

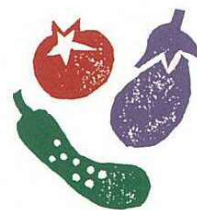


城南ブロック会・総会・聞法会

去る5月18日(日)、大田区・大井町きゅりあんにて、総会・聞法会を開催し、18名の方にご参加頂きました。

総会では、昨年度の活動と新年度の予定等について報告申し上げ、今後の活動が円滑に進むように皆様にご審議頂きました。

今年度も会員の皆様のご協力のもと、聞法活動を進めて参りたいと存じます。(大橋 伊知郎 記)




編集後記

7月は文月ともいわれ、語源には短冊に詩や文字を書き、書道の上達を祈った七夕の行事にちなみ、「文披月(ふみひらづき)」が転じたという説が有力だといわれています。その他陰暦七月が稲穂が膨らむ月であるため、「穂含月(ほふみつき)」「含月(ふくみづき)」という説もあります。

数年前、書道教室に通い始めてわずか3ヶ月でやめてしまったことを、今さらながらに悔やんでいます。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com